

岐阜 光衆寺と香順先生



[●岐阜・亀甲山光衆寺](#) [●主な出品資料](#) [●川並香順先生年譜](#)

香順先生生誕 100 年記念展の開催にあたって

学校法人東京聖徳学園の創立者である川並香順先生は、明治 31 年 4 月 4 日岐阜県稲葉郡日置江村大字次木 (現 岐阜市次木 764 番地) の亀甲山光衆寺で出生されましたので、本年が生誕 100 年にあたります。

香順先生は、少年時代を光衆寺で送り、めぐまれた自然環境とあたたかい家族の中で、読書の好きな思いやりのある少年として成長しました。中学校ではひたすら勉学に励むと同時にスポーツで身体をきたえ、特に陸上競技では選手として活躍しました。大学では仏教について幅広く学びましたが、親鸞の思想に強く心をうたれ、聖徳太子の 17 条の憲法にある「和を以て貴しとなす」とする考えに共鳴しました。本学の建学の精神である「和」は、こうしたことから誕生するのですが、その元は、香順先生が少年時代につちかった他人に対する「思いやり」から出発しているようにも思われます。

香順先生の生誕 100 年を記念するこの機会に「和」についての理解をさらに深めると同時に、その原点を求めて、少年時代の香順先生の姿を各種の資料から紹介することもまた意義があり、先生を顕彰することにもなるうかと思われます。香順先生に関する各種の資料は、現在散佚して殆ど残っておりませんが、伝えられたわずかな資料を展示して、その人柄を偲びたいと思います。

平成 10 年 4 月 4 日

学校法人東京聖徳学園理事長
聖徳大学学長
聖徳大学短期大学部学長
学園長 川並弘昭

岐阜・亀甲山光衆寺

亀甲山光衆寺は、学園の創立者川並香順先生の出生の地であり、当時は岐阜県稲葉郡日置江村大字次木764番地であったが、昭和33年岐阜市に編入され、現在は岐阜市次木764番地となっている。この地は、長良川と荒田川が合流する南側の堤防に沿った豊かな農村地帯である。

光衆寺は、真宗大谷派東本願寺の末寺である。大永3年(1523)5月4日實如上人の法子正善によって、開基。寺には蓮如上人の尊像、蓮如上人・實如上人直筆の幅などがあったが、萬治2年(1659)の火災ですべてを焼失した。その後は、この地域のたびたびの水害で流失している事などもあり、江戸時代の由緒については、あまり明確ではない。

明治の新時代になって、川並正元が第8代住職として継ぎ、寺小屋を開き村の子どもたちに「よみ・かき」を教えていたことで知られる。この光衆寺は、もともとこの地方の大地主であった江崎家の菩提寺であり、同家の寄進により維持されていたが、地租改正などによる江崎家の没落により運営の転機を迎えることとなる。それは開基以来、「無檀」であったが、明治7、8年頃から同じ宗派で村内にある善了寺の協力などにより、檀家を持つに至ったことであり、新たな時代の到来であった。

川並香順先生はこの光衆寺で成長し6歳の時に得度し、父の川並泰順先生が大正7年2月に没したので、20歳で家督を相続し第10世住職となった。戦前・戦後を通じて各種の事業を寺則により続けている。現在は川並弘純が住職として活動をしている。

主な出品資料

- (1) 光衆寺由緒覚
- (2) 光衆寺由緒記録
- (3) 萬延元年9月光衆寺から寺社奉行への口上覚
- (4) 明治5年7月岐阜県に提出した光衆寺の概要
- (5) 亀甲山光衆寺門徒帰依銘簿并密細記
- (6) 岐阜県参事に提出した檀家変更の届書
- (7) 光衆寺への帰依を正副戸長に御願申上候
- (8) 善了寺から光衆寺の檀家に変更する届書
- (9) 檀家の変更にあたって光衆寺住職川並正元が善了寺青木住職にあてた約定書
- (10) 約定證 (明治8年)
- (11) 寺院規則認可申請書 (昭和17年)
- (12) 岐阜県知事からの寺院規則認可書
- (13) 寺院規則認可届
- (14) 寺院事業報告 (昭和15年度)
- (15) 川並蔵書 光衆寺に保存されている「川並蔵書」の古書類
- (16) 川並泰順の履歴書
- (17) 本山からの報恩傳使僧の下命
- (18) 光衆寺にあてた納税告知書
- (19) 川並泰順使用の折五條輪袈裟
- (20) 川並泰順使用の直綴
- (21) 川並泰順から日置江村外三ヶ村長青木英一あての改印届書
- (22) 川並泰順使用の折五條輪袈裟
- (23) 畳袈裟
- (24) 光衆寺に伝えられてきた袈裟
- (25) ハッピーの背中に染められた菊水紋
- (26) 光衆寺に伝わる経文
- (27) 光衆寺に伝わる佛説無量寿経
- (28) 光衆寺に伝わる経文類
- (29) 香順先生の履歴書
- (30) 香順先生が東京都教育局長に提出した証明願
- (31) 光衆教会全焼の証明願
- (32) 且格小学校時代の日記
- (33) 光衆寺に伝えられる七条袈裟 (夏用)
- (34) 光衆寺に伝えられる七条袈裟 (冬用)
- (35) 香順先生の手習い

(36)地理の学習 (岐阜中学校時代)
(37)香順先生の記した大洋州 (岐阜中学校時代)
(38)岐阜中学校時代の教科書とノート(動物学・化学)
(39)香順先生の感想文が初めて掲載された岐阜県岐阜中学校華陽会機関紙
(40)作文草稿帳 (岐阜中学校時代)
(41)光衆寺で尺八を奏でる香順先生
(42)都山流初傳の免状
(43)都山流の尺八音譜
(44)学生大会出場の記念撮影
(45)香順先生使用の遺品類
(46)孝子先生使用の書道関係資料
(47)香順先生の高等学校教諭一級普通免許状
(48)孝子先生の高等学校・中学校・幼稚園教諭普通免許状
(49)光衆寺に伝えられる陶器類

川並香順先生年譜

明治 31 年 (1898) 0 歳	4月 4日 岐阜県稲葉郡日置江村大字決り 764 番地で出生
明治 37 年 (1904) 6 歳	4月 15日 得度
明治 38 年 (1905) 7 歳	且格尋常高等小学校尋常科入学
明治 44 年 (1911) 13 歳	3月 25日 且格尋常高等小学校尋常科卒業 4月 2日 岐阜県立岐阜中学校入学
大正 5 年 (1916) 18 歳	3月 25日 岐阜県立岐阜中学校卒業 4月 15日 真宗大谷大学入学
大正 7 年 (1918) 20 歳	3月 4日 前戸主川並泰順 亡により家督相続
大正 9 年 (1920) 22 歳	4月 13日 姉文子、三重県鵜川原村の伊藤勝蔵と結婚
大正 10 年 (1921) 23 歳	3月 25日 真宗大谷大学専修科卒業 7月 財団法人協調会社会政策学院終了 12月 内務省社会事業職員養成所終了
大正 11 年 (1922) 24 歳	1月 財団法人協調会囑託
大正 12 年 (1923) 25 歳	4月 日本大学法文学部予科入学
大正 14 年 (1925) 27 歳	3月 日本大学法文学部予科終了 4月 日本大学法文学部法律学科本科入学
昭和 2 年 (1927) 29 歳	高橋六三郎の三女高橋孝子と結婚
昭和 3 年 (1928) 30 歳	3月 日本大学法文学部法律学科本科卒業
昭和 5 年 (1930) 32 歳	東京市大森区新井宿 5丁目に亀甲山光衆大森説教所を開く 11月 東京府方面委員
昭和 6 年 (1931) 33 歳	1月 2日 東京府荏原郡入新井町大字新井宿 5丁目 112番地で長女泰子出生 5月 財団法人協調会参事を辞し、東京市社会局保護課勤務
昭和 7 年 (1932) 34 歳	東京府救護委員 4月 14日 東京市主事、京橋区明石町市民館長兼明石町保育園長

	10月 東京府方面委員、東京府救護委員を辞す
昭和 8 年 (1933) 35 歳	1月 17日 長女泰子、大森区新井宿 5丁目 112番地で没 4月 10日 大森区新井宿 4丁目に聖徳家政学院と新井宿幼稚園創設 院長、園長に就任 4月 10日 大森区新井宿 5丁目 112番地で長男弘昭出生
昭和 10 年 (1935) 37 歳	8月 1日 大森区新井宿 5丁目 112番地で次男光昭出生
昭和 11 年 (1936) 38 歳	11月 明石町市民館は明石町方面館と改称 引き続き館長
昭和 19 年 (1944) 46 歳	2月 22日 大森区新井宿 4丁目 1143番地で母かの没 3月 10日 明石町方面館長を辞し、京橋区経済課長就任 のち東京都教育局疎開学童援護会の仕事に従事 3月 10日 戦時下の学校整備により聖徳家政学院閉鎖 3月 15日 聖徳学園保姆養成所設立、所長就任
昭和 20 年 (1945) 47 歳	4月 15日 校ノ、園ノ等空襲で焼失、保姆養成所は港区立西桜小学校の仮校ノで授業継続、新井宿幼稚園は一時休園
昭和 22 年 (1947) 49 歳	2月 5日 聖徳学園高等保育学校校長
昭和 24 年 (1949) 51 歳	3月 4日 財団法人聖徳学園設立 理事長就任
昭和 27 年 (1952) 54 歳	4月 1日 全国幼稚園教員養成機関連合会副会長
昭和 32 年 (1957) 59 歳	4月 5日 日本私立幼稚園連合会理事 4月 10日 東京都保育学校協会副会長 4月 15日 財団法人聖徳学園は学校法人東京聖徳学園となる 理事長就任
昭和 37 年 (1962) 64 歳	5月 10日 学校法人各種学校振興会監事
昭和 38 年 (1963) 65 歳	4月 24日 東京都私立幼稚園協会常任理事
昭和 40 年 (1965) 67 歳	4月 1日 聖徳学園短期大学学長、聖徳学園短期大学幼稚園教員養成所所長
昭和 41 年 (1966) 68 歳	4月 1日 聖徳学園短期大学附属幼稚園長 4月 27日 逝去 正六位勲五等雙光旭日章をつける 5月 16日 学園葬を執り行う